

テーマ：『 身近な自然を生活の中に生かす活動を通して環境問題を考える 』

横須賀市立 野比小学校

Tel. 046-849-7566

担 当 吉田 伸子

者： 永松 みどり



環境保護団体と連携して取り組んでいる
野比川の自然観察・水質調査



NPOと連携して取り組んでいる環境教育

■実践内容:

横須賀市内でも本学のある野比地区は豊かな自然が残されている地域である。その豊かな自然と、世界でも最先端の通信技術を研究開発している(株)NTTを中核とした「横須賀リサーチパークYRP」がある地域でもある。

子どもたちの生活の中で、何気なく目にしていたり、使っていたりするものの中に、科学の巧みさや不思議さ、残酷さ、美しさなど、様々な営みがあることに気づかせ、その自然と文化的な生活をどう両立を図っていくべきなのかを考えさせたいと思い、学校とNPO・ボランティア団体などと連携を図り、環境教育を推進してきた。

■実践成果:

①地域には、三浦半島でも貴重な「ゲンジ萤とヘイケ萤が共存している」場所がある。その観察会(150名を超える参加者)を通して、子どもたちだけでなく、保護者や地域の方々にも自然保護の重要性を再認識していただけた。

②環境保護団体との連携で、学区内を流れる「野比川」の観察を定期的に行う中で、水質汚染や水生昆虫の生息状況を興味をもって取り組めるようになった。この観察が、環境保護の視点の広がり発展していった。

③NPOや企業と連携を図り、全学年で環境教育を行った。

中でも日産自動車の「もの作り教室」や東京ガスの「環境教室」などは、キャリア教育にもつながっていくものとなった。さらに、数年にわたる「環境教育(ソーラー発電)」の学習活動は、子どもの生活に直結するもので、興味関心をもって取り組むことができた。

■実践ポイント:

①身近な自然を教材化し、子どもの興味関心を持続させる働きかけや、活動の支援を推進した。

②学校だけでなく、地域のボランティア団体、NPO、企業など、専門家との連携を図ることで、活動が深化拡充した。

③「身近な自然に触れる中で感じたり思ったりしたことを追究し、まとめたことを発表する」という一連の学習を構造的に取り組ませたことで、子ども自身が自然の学び方・接し方を獲得することができた。

④様々な観点で環境問題にアプローチしたことで、身近なところに環境問題があることに子どもたち自身で気づくことができた。